

はままつじょうはくつつうしん  
浜松城発掘通信

№5

浜松市文化財課 2018年8月16日

**浜松城の発掘調査を再開しました。**

浜松市文化財課では、浜松城の発掘調査を8月1日に再開しました。このたびの調査は、天守曲輪（てんしゅくるわ）南東隅に建物があったのか、その詳細説明を目指します。



**天守曲輪の調査状況** 2018年8月2日の調査状況。天守曲輪南東隅において、2018年2月に見つかった大量の瓦の集積について、細かな状況を明らかにしていきます。

## 2018年2月に出土した出土遺物を紹介します。

浜松城跡で2018年に実施した発掘調査において、お酒等を入れていた徳利が出土しました。大正時代から昭和初期に浜松城の天守台を所有していた間瀧屋（現・間瀧商店）のものと考えられます。



出土した徳利（左）と間瀧商店に伝わる徳利（右）  
天守曲輪の上層部分から出土した徳利。現在の間瀧商店にもそっくりの徳利が保管されていました。



間瀧商店 現社長に話をうかがう  
間瀧屋は間瀧商店と名称を変えながらも着町に現存しています。現社長からはお店の歴史をうかがいました。



浜松市を中心とする名所史蹟交通鳥瞰図（部分、吉田初三郎作、昭和5年）

昭和5年（1930年）昭和天皇の浜松焼杉に合わせて製作された鳥瞰図。浜松城の天守台を間瀧屋が管理していた頃の様子を伝えています。天守台には鉄塔状の物見櫓が建てられていることがうかがえます。

浜松城の発掘調査は平日の午前8時から午後4時までの作業時間内において、安全柵の外側から作業状況を見学いただけます。また、8月18日（土）、9月2日（日）、10月7日（日）は休日の公開発掘調査を行います。